

## 日本フンボルト協会 2016 年度第 3 回常務理事会議事録

出席者：廣渡清吾、西川伸一、縣公一郎、浅田和茂、伊藤眞、岡林洋、梶英輔、高橋宗五、  
高橋輝暁、伏木信次、宮崎保光、鏝田武志、関映子（事務局）

日時：2017 年 5 月 21 日 12 時より 15 時 15 分まで

場所：ドイツ学術交流会東京事務所

### 協議事項

#### 1. 次期役員体制について

- ・理事長から、総会では役員の変更を行うので、前回の手続きと同様に、理事・評議員・監事・顧問の候補者名簿を常務理事会として作成し、理事会の了承をえて総会に提案するが、候補者名簿は各支部長に支部の意向（役員の変更や新規提案など）を聞いたうえで理事長の責任で作成したことが報告され、別紙の通りに承認された。
- ・理事長、副理事長および常務理事は新理事会で選出されるが、新理事会から要請があった場合に提案する原案が理事長から諮られた。また、支部長は、新理事会において理事長が指名することとされているが、関東甲信越支部および中部支部では支部として支部長の変更が了承され、次期支部長案も準備されていることが報告された。

#### 2. 2017 年度の総会について

以下の要領で行うことが決定された。

- ・開催日時 2017 年 7 月 1 日
- ・開催場所 ドイツ文化会館
- ・プログラム

- 12:00 — 12:45 常務理事会・支部長合同会議 (4 階会議室)
- 13:00 — 13:45 理事会 (4 階会議室)
- 13:45 — 14:30 会員総会（会務報告、決算・予算、新理事選出）（下のホール）  
(留学生説明会までの休憩時間に新理事会を開催)
- 14:45 — 15:30 留学説明会全体会（司会：鏝田常務理事）
- 15:45—17:15 説明会分科会
- 17:30—18:10 講演会（司会：縣常務理事）  
講演者：河崎 健（上智大学、政治学、2016 年度ジーボルト賞受賞）
- 18:30—20:30 懇親会（司会：縣常務理事）

- ・新理事長挨拶
- ・大使ご挨拶

（常務理事会においてはミニコンサート開催を検討することとしたが、その後の折衝の結果、開催しないこととした）

- ・総会開催案内状の発送について、あわせて「登録データ確認のお願い」を送ることが事務局から報告された。最新のメール・アドレスを集めることが目的である。また、案内状の発送先に関連して、ボンの本部からフンボルト奨学金授与決定者の情報をもらい、その段階でフンボルト協会の

会員予定者として連絡し、帰国後に連絡先を事務局に通知してもらい体制をとることが提案され、検討することとした。また、現地からの報告を寄稿してもらい Website に掲載することも検討することとした。

### 3. 2017 年度留学生説明会について

以下の要領で行うことが決定された。

- ・構成は恒例のように全体説明会（14:45-15:30）および専門別分科会（15:45-17:15）とし、全体説明会における若手の留学体験談は今回はなしとする。フンボルト財団および DAAD の奨学金制度の概要説明を行う。専門別分科会は、全部で 7 分科会（人文学、社会科学、理学系、工学系、生命科学系、医学系、DAAD）とし、人文系の参加者が少ない場合には人文学と社会科学を統合する。
- ・分科会では最近帰国した若手の Humboldtianer 2 名に話をし、分科会にはできるだけ独自のスペースを確保するように努力する。
- ・DAAD の分科会については設置の可否や運営の仕方について検討の余地があるが、今回は従来通りとして、今後、新たな方式を考えるときには DAAD 友の会とも協議することとする。したがって、今回の共催は、従前と同じく、DAAD 東京事務所とする。

### 4. 会計収支について（別紙参照）

- ・会計収支が、雑収入の備考欄の数字を以下のように訂正したうえで報告された。

121,841 → 121,840

216,000 → 216,760

- ・支出の費目わけにつき、Schildt 氏の接待費は事務費から会合費に、DAAD 東京事務所長への送別記念品代は予備費に入れることにした。
- ・高橋（輝）財政担当常務理事から、次年度予算案について、会費納入率が低いことの対策をどうするか、本部からの支援金を予算に組み込むか、支出費目が現行のままでよいかなどの問題提起があった。予算案の収入 3,400,000 円という数字は納入率を 50%として計算しているが、これは東西統合時の会員 1700 名を前提したもので、実際、会費請求が届いている会員は、賛助会員を含めて現在 1573 名であることが確認され、そこで、その数を基礎に 50%納入率で収入を計上し(3,146,000)、これに見合う支出計画をたてるべきことが議論の結果、了承され、次のことを確認した。
- ・「学術企画助成費」の費目は削除する。
- ・本部からの支援金は、総会開催に対する支援金（Humboldtianer の出席数に応じて支援）は確定的に行われると予定できるので、これについては予算案に収入として計上する。
- ・支出の削減をできるだけ図ることとし、とくに印刷費、郵送費について事務局で検討する。

### 5. 各支部の活動状況について

以下の各支部については事務局から情報が提供された。

- ・北海道支部は DAAD と Humboldt が合同で昨年 7 月 15 日にアルムニの会合を開催した。Humboldtianer の出席者は数名であり、会員の高齢化が原因と思われる。留学説明会開催が希望されている。
- ・中四国支部は広島で今年 5 月 10 日にフンボルトと DAAD でアルムニ会を開催した。これは DAAD 東京事務所長 Mahnke 氏が広島大学で留学説明会を行った機会を利用したものである。中四国の

大森支部長、広島と岡山の Humboldtianer が出席した。

- ・九州支部は 2016 年 5 月 17 日に福岡でアルムニ会を開催した。
- ・東北支部は今年 5 月 14 日に仙台で総会を開催し、その機会に DAAD 友の会会員も合同でアルムニ会を開催した。
- ・関東甲信越支部（別紙参照）、関西支部（別紙参照）および中部支部（別紙参照）についてはそれぞれ別紙のとおり、梶、西川および宮崎各常務理事から報告が行われた。

#### 6. ホームページの運用について

（別紙「日本フンボルト協会の運営について 5. 協会ホームページの運用について」（4 頁）を参照）

- ・鏑田 HP 担当常務理事から、HP 運営の現状の手詰まり状態を打開するために、対面で議論できる編集委員会をぜひ開催したいと提案があり、委員の交通費の手当てについて検討することとした。

#### 7. 賛助会員の拡大について

- ・今年度も新規のプライス受賞者および昨年度のお願い文書発送先で返事が返ってきていない人について、賛助会員としての協会加入のお願い文書を発送することとした。

#### 8. その他

- ・10 月に早稲田大学で Re-connect with Bonn が開催される予定であり、フンボルト財団の共催であることが情報として提供された。
- ・今後の常務理事会について、テレビ会議で行なう可能性を検討することとした。

以上